

2012 年度の PIO-NET および医療機関ネットワークにみる危害・危険情報の概要

この概要は、2012 年度に PIO-NET^(注1)により収集した危害・危険情報^(注2)と、医療機関ネットワーク事業^(注3)(以下「医療機関ネットワーク」)の参画医療機関(13 病院)から収集した危害情報をまとめたものである。

当該情報の詳細については、「消費生活年報 2013」(2013 年 10 月発行予定)に掲載する予定である。

2012 年度の傾向と特徴

- ・PIO-NET により収集した「危害情報^(注4)」は 10,599 件であった。前年度(2011 年度)に急増した小麦加水分解物含有石けん^(注5)が大幅に減少したため、危害情報全体の件数は前年度より減少したが、小麦加水分解物含有石けんを除くと、「医療サービス」の急増などにより、1,196 件増加した。
- ・PIO-NET により収集した「危険情報^(注6)」は 4,170 件であった。前年度 1 位の「四輪自動車」がさらに増加したことや、前年度 9 位の「調理食品」が 2 位へ、前年度 23 位の「携帯電話」が 3 位へと大幅に順位が上昇したことなどにより、危険情報全体の件数は 468 件増加した。
- ・医療機関ネットワークからは、5,003 件の危害情報を収集した。上位 3 商品は、「家具類」「階段」「遊具」であった。

(注1) PIO-NET (パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム)とは、国民生活センターと全国の消費生活センターをオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注2) データは、2013 年 5 月末日までの登録分。なお、2007 年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」を除いている。

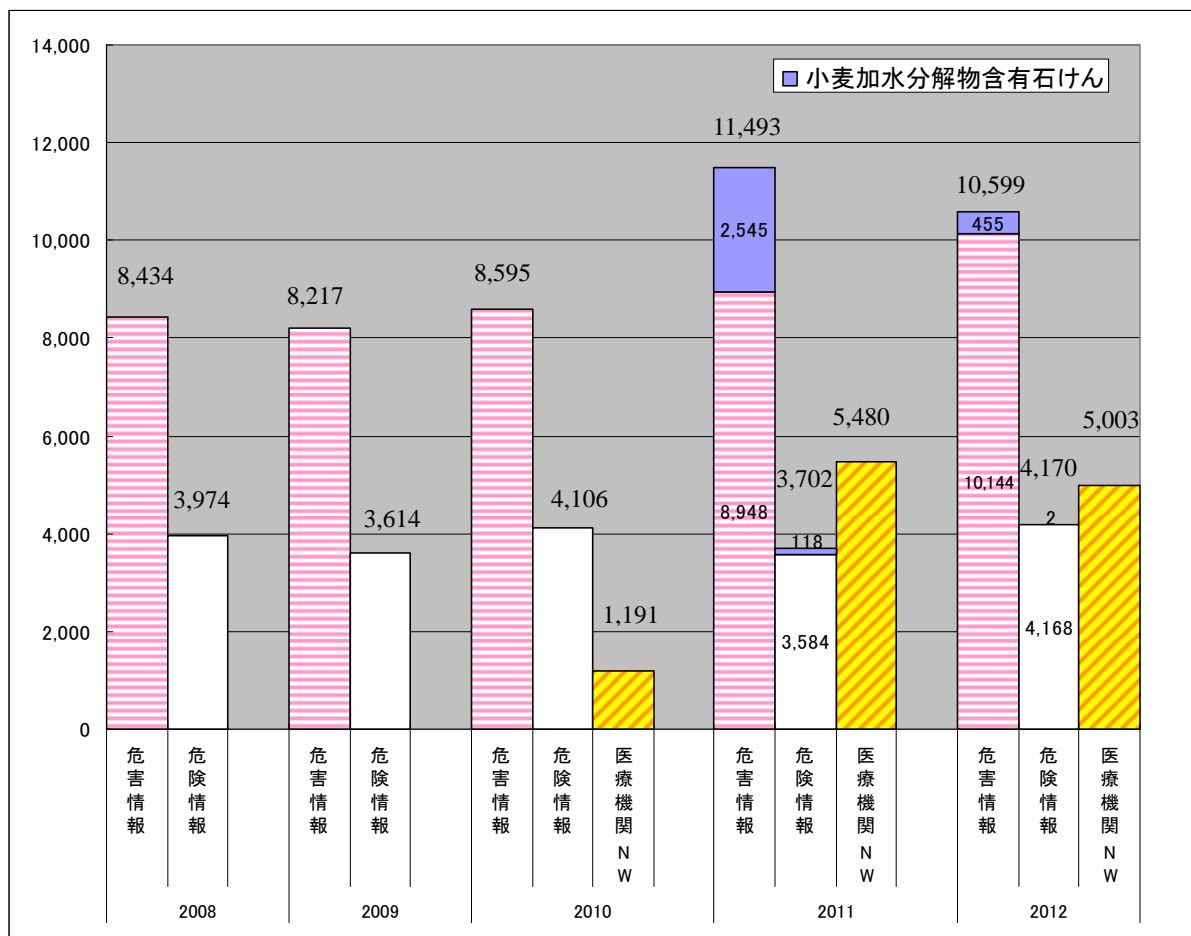
(注3) 「医療機関ネットワーク」とは、消費生活上において生命または身体に被害を生じる事故に遭い医療機関を利用した患者から情報を収集して、注意喚起などに活用することを目的としている事業。消費者庁との共同事業として 2010 年 12 月より情報収集を開始している。

(注4) 「危害情報」とは、商品・役務・設備に関して、身体にけが、病気等の疾病(危害)を受けたという事例。

(注5) 商品・役務別では、小麦加水分解物含有石けんは「化粧品」に含まれる。

(注6) 「危険情報」とは、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある事例。

図. 危害・危険情報と医療機関ネットワークの情報の収集件数の推移



(注)①データは2013年5月末日までの登録分。PIO-NETにより収集した「危害情報」、「危険情報」は2007年度から「経由相談」を除いている。

②2010年度の医療機関ネットワークの件数は、2010年12月から2011年3月末までのものである。

③小麦加水分解物含有石けんの件数は2011年度以降分の危害・危険情報のみ図中に記載している。

1. PIO-NET 編

「危害情報」の概要

2012年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は10,599件であった(2011年度:11,493件)。

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別にみると、1位は「保健・福祉サービス」(医療サービス、エステティックサービスなど)2,844件(26.8%)、2位は「保健衛生品」(化粧品、他の保健衛生用品など)2,277件(21.5%)、3位は「食料品」(健康食品、調理食品など)1,792件(16.9%)、4位は「住居品」(家具類、ふとん類など)1,002件(9.5%)、5位は「他のサービス」(外食など)563件(5.3%)であった。(表1)

具体的に商品・役務別にみると、1位は「化粧品」1,405件(13.3%)であり、前年度より約2,000件減少した。この1,405件のうち、小麦加水分解物含有石けんに関する件数は455件で、前年度の2,545件より大きく減少したが、依然として多くの相談が寄せられている。2位は「医療サービス」850件(8.0%)であり、前年度より122件増加した。3位は「エステティックサービス」590件(5.6%)、4位は「健康食品」532件(5.0%)、5位は「外食」466件(4.4%)であった。(表2)

表 1. 危害情報の商品等別分類の上位 5 位の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 8,595 件			2011年度 11,493 件			2012年度 10,599 件		
	商品等別分類	件数	割合(%)	商品等別分類	件数	割合(%)	商品等別分類	件数	割合(%)
1	保健・福祉サービス	2,228	25.9	保健衛生品	4,180	36.4	保健・福祉サービス	2,844	26.8
2	食料品	1,471	17.1	保健・福祉サービス	2,389	20.8	保健衛生品	2,277	21.5
3	保健衛生品	1,344	15.6	食料品	1,601	13.9	食料品	1,792	16.9
4	住居品	982	11.4	住居品	869	7.6	住居品	1,002	9.5
5	他のサービス	425	4.9	他のサービス	530	4.6	他のサービス	563	5.3

表 2. 危害発生件数上位 5 商品・役務の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 8,595 件			2011年度 11,493 件			2012年度 10,599 件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	医療サービス	712	8.3	化粧品	3,447	30.0	化粧品	1,405	13.3
2	化粧品	649	7.6	医療サービス	728	6.3	医療サービス	850	8.0
3	エステティックサービス	593	6.9	エステティックサービス	616	5.4	エステティックサービス	590	5.6
4	健康食品	423	4.9	健康食品	533	4.6	健康食品	532	5.0
5	外食	335	3.9	外食	438	3.8	外食	466	4.4

(2) 危害の内容

1 位は、前年度 2 位の「その他の傷病及び諸症状^(注 7)」3,092 件 (29.2%) であり、前年度より 81 件増加した。内容をみると、「医療サービス」「歯科治療」「健康食品」などによって体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状である。

2 位は、前年度 1 位の「皮膚障害」2,669 件(25.2%)であり、内容をみると「化粧品」によるものが多く、前年度より 1,184 件減少した。

3 位は、「健康食品」「外食」「飲料」などによる「消化器障害」1,021 件 (9.6%) であり、前年度より 103 件増加した。

4 位は、「他の保健衛生用品」「エステティックサービス」などによる「熱傷」813 件 (7.7%) であり、前年度より 123 件増加した。

5 位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」691 件 (6.5%) であった。(表 3)

(注 7) 「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、頭痛、精神不安定等、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表 3. 危害内容別上位 5 位の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 8,595 件			2011年度 11,493 件			2012年度 10,599 件		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	その他の傷病及び諸症状	2,622	30.5	皮膚障害	3,853	33.5	その他の傷病及び諸症状	3,092	29.2
2	皮膚障害	1,775	20.7	その他の傷病及び諸症状	3,011	26.2	皮膚障害	2,669	25.2
3	擦過傷・挫傷・打撲傷	799	9.3	消化器障害	918	8.0	消化器障害	1,021	9.6
4	消化器障害	780	9.1	擦過傷・挫傷・打撲傷	695	6.0	熱傷	813	7.7
5	熱傷	748	8.7	熱傷	690	6.0	擦過傷・挫傷・打撲傷	691	6.5

(3) 被害者の年代・性別

危害を受けた被害者の性別は、女性が 7,448 件 (70.3%)、男性が 2,906 件 (27.4%) であり、「化粧品」の減少の影響で、前年度より女性の割合が 5.2 ポイント減った。

年代別では、1 位が 40 歳代で 1,775 件 (16.7%)、2 位が 60 歳代で 1,645 件 (15.5%)、3 位が 70 歳以上で 1,623 件 (15.3%)、4 位が 50 歳代で 1,503 件 (14.2%)、5 位が 30 歳代で 1,497 件 (14.1%)、6 位が 20 歳代で 894 件 (8.4%)、7 位が 10 歳未満で 406 件 (3.8%)、8 位が 10 歳代で 277 件 (2.6%) であった。10 歳未満の件数は増加し、10 歳代以上の年代はいずれも減少した。(表 4)

年代別に危害の最も多い商品・役務をみると、10 歳未満は「外食」で 33 件、10 歳代は「自転車」で 28 件、20 歳代は「エステティックサービス」で 164 件、30 歳代も「エステティックサービス」で 181 件、40 歳代以降はいずれも 1 位は「化粧品」であり、40 歳代は 206 件、50 歳代は 251 件、60 歳代は 332 件、70 歳以上は 273 件であった。

表 4. 年代別・性別危害件数 (PIO-NET)

年代	男		女		不明		計	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	181	6.2	155	2.1	70	28.6	406	3.8
10歳代	122	4.2	150	2.0	5	2.0	277	2.6
20歳代	213	7.3	678	9.1	3	1.2	894	8.4
30歳代	364	12.5	1,131	15.2	2	0.8	1,497	14.1
40歳代	465	16.0	1,307	17.5	3	1.2	1,775	16.7
50歳代	400	13.8	1,100	14.8	3	1.2	1,503	14.2
60歳代	451	15.5	1,194	16.0	0	0.0	1,645	15.5
70歳以上	442	15.2	1,176	15.8	5	2.0	1,623	15.3
不明	268	9.2	557	7.5	154	62.9	979	9.2
合計	2,906	27.4	7,448	70.3	245	2.3	10,599	100.0

「危険情報」の概要

2012年度に収集した「危険情報」は4,170件であった(2011年度:3,702件)。

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別でみると、1位は「住居品」(家具類、電子レンジ類、電球類など)1,374件(32.9%)、2位は「車両・乗り物」(四輪自動車、自動二輪車、自転車など)940件(22.5%)、3位は「食料品」(調理食品、菓子類など)456件(10.9%)、4位は「教養娯楽品」(携帯電話など)421件(10.1%)、5位は「保健衛生品」(他の保健衛生用品、ヘアケア用具など)190件(4.6%)であった。(表5)

具体的に商品・役務別でみると、1位は「四輪自動車」655件(15.7%)であり、前年度よりも165件増加した。2位は前年度9位の「調理食品」120件(2.9%)であり前年度より57件増加、3位は前年度23位の「携帯電話」108件(2.6%)であり前年度より68件増加した。4位は「家具類」で96件(2.3%)、5位は「自動二輪車」と「自転車」で、ともに93件(2.2%)であった。(表6)

表 5. 危険情報の商品等別分類の上位5位の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 4,106件			2011年度 3,702件			2012年度 4,170件		
	商品等別分類	件数	割合 (%)	商品等別分類	件数	割合 (%)	商品等別分類	件数	割合 (%)
1	住居品	1,637	39.9	住居品	1,288	34.8	住居品	1,374	32.9
2	車両・乗り物	952	23.2	車両・乗り物	763	20.6	車両・乗り物	940	22.5
3	教養娯楽品	474	11.5	教養娯楽品	421	11.4	食料品	456	10.9
4	食料品	323	7.9	食料品	321	8.7	教養娯楽品	421	10.1
5	土地・建物・設備	177	4.3	保健衛生品	251	6.8	保健衛生品	190	4.6

表 6. 危険発生件数上位5商品・役務の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 4,106件			2011年度 3,702件			2012年度 4,170件		
	商品・役務	件数	割合 (%)	商品・役務	件数	割合 (%)	商品・役務	件数	割合 (%)
1	四輪自動車	639	15.6	四輪自動車	490	13.2	四輪自動車	655	15.7
2	電子レンジ類	115	2.8	化粧品	128	3.5	調理食品	120	2.9
3	テレビ	113	2.8	電子レンジ類	89	2.4	携帯電話	108	2.6
4	自転車	111	2.7	自動二輪車	82	2.2	家具類	96	2.3
5	家具類	103	2.5	菓子類	81	2.2	自動二輪車	93	2.2
							自転車	93	2.2

(2) 危険の内容

1位は、前年度2位の「機能故障」611件(14.7%)で、前年度より139件増加した。内容をみると「四輪自動車」が多い。

2位は、前年度1位の「発煙・火花」499件(12.0%)で、前年度より51件減少した。内容をみると「電気掃除機類」「四輪自動車」によるものが多い。

3位は、「調理食品」「菓子類」「外食」などの「異物の混入」481件(11.5%)で、前年度より136件増加した。

4位は、「家具類」「四輪自動車」「自転車」などの「破損・折損」455件(10.9%)で、前年度より99件増加した。

5位は、「携帯電話」などの「過熱・こげる」451件(10.8%)で、前年度より73件増加した。(表7)

表7. 危険内容別上位5位の推移 (PIO-NET)

順位	2010年度 4,106件			2011年度 3,702件			2012年度 4,170件		
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	発煙・火花	611	14.9	発煙・火花	550	14.9	機能故障	611	14.7
2	機能故障	598	14.6	機能故障	472	12.7	発煙・火花	499	12.0
3	破損・折損	432	10.5	過熱・こげる	378	10.2	異物の混入	481	11.5
4	過熱・こげる	425	10.4	破損・折損	356	9.6	破損・折損	455	10.9
5	発火・引火	392	9.5	異物の混入	345	9.3	過熱・こげる	451	10.8

2. 医療機関ネットワーク編

2012年度に参画医療機関(13病院)から収集した情報は5,003件であった。(2011年度:5,480件)

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別でみると、1位は「住居品」(家具類、調理器具など)1,691件(33.8%)、2位は「土地・建物・設備」(階段、建具など)1,227件(24.5%)、3位は「教養娯楽品」(遊具など)822件(16.4%)、4位は「車両・乗り物」(自転車など)479件(9.6%)、5位は「保健衛生品」(医薬品類など)287件(5.7%)であった。(表8)

具体的に商品・役務別でみると、1位は「家具類」887件(17.7%)であり、前年度よりも209件減少した。2位は「階段」429件(8.6%)、3位は「遊具」297件(5.9%)、4位は「自転車」271件(5.4%)、5位は「建具」234件(4.7%)であった。(表9)

表8. 商品等別分類の上位5位の推移 (医療機関ネットワーク)

順位	2010年度 1,191件			2011年度 5,480件			2012年度 5,003件		
	商品等別分類	件数	割合(%)	商品等別分類	件数	割合(%)	商品等別分類	件数	割合(%)
1	住居品	420	35.3	住居品	1,937	35.3	住居品	1,691	33.8
2	土地・建物・設備	293	24.6	土地・建物・設備	1,335	24.4	土地・建物・設備	1,227	24.5
3	教養娯楽品	157	13.2	教養娯楽品	836	15.3	教養娯楽品	822	16.4
4	車両・乗り物	126	10.6	車両・乗り物	581	10.6	車両・乗り物	479	9.6
5	食料品	82	6.9	保健衛生品	287	5.2	保健衛生品	287	5.7

表9. 危害発生件数上位5商品・役務の推移 (医療機関ネットワーク)

順位	2010年度 1,191件			2011年度 5,480件			2012年度 5,003件		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	家具類	221	18.6	家具類	1,096	20.0	家具類	887	17.7
2	階段	100	8.4	階段	486	8.9	階段	429	8.6
3	自転車	60	5.0	自転車	327	6.0	遊具	297	5.9
4	遊具	53	4.5	遊具	286	5.2	自転車	271	5.4
5	建具	46	3.9	建具	249	4.5	建具	234	4.7

(注)2010年度の医療機関ネットワークの件数は2010年12月から2011年3月末までのものである。

(2) 被害者の年代・性別

10歳未満が3,915件と全体の78.3%を占めていた。中でも0~2歳の乳幼児は2,223件(44.4%)で最も多かった。10歳代の342件(6.8%)と合わせると、20歳未満で全体の85.1%を占める。これは子どもを対象とした医療機関から多くの情報が寄せられたためである。

性別は、男性2,849件(56.9%)、女性2,154件(43.1%)で男性の方が695件多かった。(表10)

表 10. 年代別・性別危害件数（医療機関ネットワーク）

年代	性別	男		女		計	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	0～2歳	1,272	44.6	951	44.2	2,223	44.4
	3～5歳	639	22.4	485	22.5	1,124	22.5
	6～9歳	360	12.6	208	9.7	568	11.4
	小計	2,271	79.7	1,644	76.3	3,915	78.3
	10歳代	230	8.1	112	5.2	342	6.8
	20歳代	51	1.8	49	2.3	100	2.0
	30歳代	49	1.7	44	2.0	93	1.9
	40歳代	39	1.4	52	2.4	91	1.8
	50歳代	49	1.7	65	3.0	114	2.3
	60歳代	68	2.4	67	3.1	135	2.7
	70歳以上	92	3.2	121	5.6	213	4.3
	合計	2,849	100.0	2,154	100.0	5,003	100.0
	性別割合(%)	56.9		43.1		100.0	

（３）危害の程度

軽症（入院を要さない傷病）が4,493件(89.8%)と最も多く、中等症（生命に危険はないが、入院を要する状態）が480件(9.6%)、重症（生命に危険が及ぶ可能性が高い状態）が28件(0.6%)、重篤症（生命に危機が迫っている状態）が1件（0.1%未満）であった。死亡は1件（0.1%未満）であった。（表 11）

表 11. 危害程度別件数の推移（医療機関ネットワーク）

	2010年度 1,191 件		2011年度 5,480 件		2012年度 5,003 件	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
軽症	985	82.7	4,804	87.7	4,493	89.8
中等症	179	15.0	624	11.4	480	9.6
重症	22	1.8	48	0.9	28	0.6
重篤症	2	0.2	2	0.1%未満	1	0.1%未満
死亡	3	0.3	2	0.1%未満	1	0.1%未満

（４）危害内容別商品・役務

上位5位の危害内容で、それぞれ多い商品・役務は次のとおりであった。

1位「擦過傷・挫傷・打撲傷」(2,649件)では、「家具類」715件(27.0%)、「階段」340件(12.8%)、「遊具」215件(8.1%)、2位「刺傷・切傷・裂傷」(726件)では、「家具類」105件(14.5%)、「調理器具」88件(12.1%)、3位「熱傷」(495件)では、「調理食品」62件(12.5%)、4位「異物侵入」(471件)では、主に誤飲の事故であるが、「玩具・遊具その他」46件(9.8%)、「医薬品類」36件(7.6%)、5位「骨折」(245件)では、「遊具」38件(15.5%)、「自転車」37件(15.1%)であった。

○情報提供先

消費者庁 地方協力課
消費者委員会事務局

(本件問い合わせ先)

商品テスト部：042-758-3165

別添

<参考資料 上位3商品・役務の概要>

1. PIO-NET 編

「危害情報」

①化粧品 (1,405 件)

化粧品は1,405件で、全体に占める割合は13.3%であり、前年度より約2,000件減少した。

性別は、女性が1,281件(91.2%)と9割以上を占めた。年代別にみると、1位が60歳代で332件(23.6%)、2位が70歳以上で273件(19.4%)、3位が50歳代で251件(17.9%)であった。

化粧品の内訳をみると、1位が「化粧石けん」568件(40.4%)で4割を占め、2位が「化粧クリーム」109件(7.8%)であった。危害内容では、1位が「皮膚障害」1,124件(80.0%)であり全体の8割を占め、2位が「その他の傷病及び諸症状」169件(12.0%)、3位が「呼吸器障害」72件(5.1%)であった。

<事例>

- ・ 自主回収している小麦由来化粧洗顔石けんが原因で、食後に運動した際に、顔中に発疹が出て、かゆみがあり、アレルギー症状を発症した。(10歳代・男性)
- ・ インターネット通販でジェルネイルを購入し使用中に爪のそばの皮膚をやけどした。(40歳代・女性)

②医療サービス(850件)

医療サービスは850件で、全体に占める割合は8.0%であり、前年度より122件増加した。

性別は、女性が603件(70.9%)と7割を占めた。年代別にみると、1位が70歳以上で156件(18.4%)、2位が40歳代で147件(17.3%)、3位が30歳代で121件(14.2%)であった。

危害内容では、1位が「その他の傷病及び諸症状」418件(49.2%)で約半数を占め、2位が「皮膚障害」194件(22.8%)、3位が「熱傷」55件(6.5%)であった。

<事例>

- ・ 高齢の母がかかりつけ医から間違った処方薬を服用したために体調が悪くなり、入院した。(70歳以上・女性)
- ・ 美容クリニックで両腕と背中にレーザー脱毛の施術を受けたところ施術部位が水ぶくれ状態になり皮膚科でやけどと言われた。(20歳代・女性)

③エステティックサービス(590件)

エステティックサービスは590件で、全体に占める割合は5.6%であり、前年度より26件減少した。

性別は、ほとんどが女性であり、570件(96.6%)である。年代別にみると、1位が30歳代で181件(30.7%)、2位が20歳代で164件(27.8%)であり、両方で全体の6割近くを占めた。

エステティックサービスの内訳をみると、1位が「美顔エステ」236件(40.0%)、2位が「脱毛エステ」145件(24.6%)、3位が「^{痩身}瘦身エステ」115件(19.5%)であった。危害内容では、1位が「皮膚障害」267件(45.3%)、2位が「その他の傷病及び諸症状」114件(19.3%)、3位が「熱傷」104件(17.6%)であった。

<事例>

- ・ 美容サロンでまつ毛エクステの施術を受けたら、両目が角膜炎、角膜びらん等になり、視力が低下した。(30歳代・女性)
- ・ 痩身エステのオイルマッサージで皮膚が赤く腫れ発疹が出た。(40歳代・女性)

「危険情報」

①四輪自動車(655件)

四輪自動車は655件で、全体に占める割合は15.7%であり、前年度より165件増加した。

四輪自動車の内訳をみると、「普通・小型自動車」で470件(71.8%)と7割を占めた。また「軽自動車」は158件(24.1%)であった。危険内容では、1位が早期故障や故障頻発などの「機能故障」の402件(61.4%)であり、全体の6割を占め、2位が「破損・折損」44件(6.7%)、3位が「発煙・火花」40件(6.1%)であった。

<事例>

- ・ 車を駐車場で止めようとしたところ、ABS機能が働き、すぐ停止できずフェンスに衝突した。
- ・ 輸入中古車購入3カ月後、高速走行前にタイヤ外部に傷を発見、バースト寸前の危険ありと判明した。

②調理食品(120件)

調理食品は120件で、全体に占める割合は2.9%であり、前年度より57件増加した。

調理食品の内訳をみると、1位が「弁当」36件(30.0%)で3割を占めた。2位が即席みそ汁などの「他の調理食品」23件(19.2%)、3位が「冷凍調理食品」17件(14.2%)であった。危険内容では、「異物の混入」107件(89.2%)が最も多く全体の約9割を占めた。

<事例>

- ・ スーパーで購入した白身フライ弁当のご飯に1センチ程の鋭利なプラスチック片が入っていた。
- ・ スーパーで焼き餃子を購入。食べたら石のような異物が入っていた。

③携帯電話(108件)

携帯電話は108件で、全体に占める割合は2.6%であり、前年度より68件増加した。

危険内容では、1位が「過熱・こげる」78件(72.2%)で、7割を占めた。2位が「破裂」と「破損・折損」で、ともに9件(8.3%)であった。

<事例>

- ・ スマートフォンを充電しながらナビを利用したら、持てないくらい熱くなった。
- ・ 主に音楽を聞いたりゲームに使っていたスマートフォンを充電し終わって、置いていたら夜中に大きな音がした。電池が膨張し、本体が破裂していた。

2. 医療機関ネットワーク編

①家具類 (887 件)

年代別にみると、1位が10歳未満で848件(95.6%)であり、全体の95%以上を占めた。中でも0~2歳が606件で突出して多かった。2位が70歳以上で12件(1.4%)、3位が10歳代で10件(1.1%)であった。

危害内容では、1位が「擦過傷・挫傷・打撲傷」715件(80.6%)、2位が「刺傷・切傷・裂傷」105件(11.8%)、3位が「骨折」34件(3.8%)であり、上位3位までで全体の96.3%を占めた。

<事例>

- ・ 大人用ベッドで昼寝をさせていたところ、転落して頭部を打撲した。ベッドの周りをクッションで落ちないようにカバーしていたが、それを乗り越えて転落した。(7カ月・男児)
- ・ 回転いすに登って探し物をしていたところ、いすが回転してしまって転倒し、手首を骨折した。(70歳以上・女性)

②階段 (429 件)

年代別にみると、1位が10歳未満で339件(79.0%)であり、全体の約8割を占めた。中でも0~2歳が209件で突出して多かった。2位が10歳代で27件(6.3%)、3位が70歳以上で21件(4.9%)であった。

危害内容では、1位が「擦過傷・挫傷・打撲傷」340件(79.3%)、2位が「刺傷・切傷・裂傷」36件(8.4%)、3位が「骨折」26件(6.1%)であり、上位3位までで全体の93.7%を占めた。

<事例>

- ・ 3階から2階まで階段を転落し、頭部を打撲して硬膜外血腫になった。(1歳・女児)
- ・ 階段を2段階み外して転落し、かかとを骨折した。(70歳以上・女性)

③遊具 (297 件)

年代別にみると、1位が10歳未満で267件(89.9%)であり、全体の約9割を占めた。2位が10歳代で29件(9.8%)である。

危害内容では、1位が「擦過傷・挫傷・打撲傷」215件(72.4%)、2位が「骨折」38件(12.8%)、3位が「刺傷・切傷・裂傷」23件(7.7%)であり、上位3位までで全体の92.9%を占めた。

<事例>

- ・ 保育園のジャングルジムより転落し、下顎部を挫創した。(3歳・男児)
- ・ ターザンロープにて遊んでいるときに手が滑り、握っていたロープで右手指を切り、神経断裂した。(8歳・男児)